

## 令和5年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、令和5年1年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

### 利用上の注意

- ・本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：（東部ブロック）塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町  
（北部ブロック）富谷市、大和町、大郷町、大衡村  
（南部ブロック）名取市、岩沼市、亘理町、山元町

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県  
東北5県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

### 用語の説明

- ・登録人口＝住民基本台帳人口（日本人住民＋外国人住民）
- ・人口増加数＝自然増加数＋社会増加数
- ・自然増加数＝出生数－死亡数
- ・社会増加数＝転入数－転出数＋その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

## 解説

### I 登録人口（日本人住民＋外国人住民）による人口動向

#### 1 概要

令和5年末の登録人口は106万6,362人でした。

また、令和5年1年間の人口増加数は△1,124人となり、前年の人口増加数2,121人に比べ3,245人の減少となっています。その内訳は、自然増加数が△4,555人（対前年848人の減少）、社会増加数が3,431人（対前年2,397人の減少）となりました。

（表1、図1、統計表第1表）

表1 登録人口の推移—全市、区（平成30年～令和5年）

年次	各年末（単位：人）							
	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成30年	1,062,585	292,897	74,309	190,079	135,980	229,806	4,107	213,823
令和元年	1,064,060	292,998	74,365	190,215	136,465	231,353	4,059	213,029
2	1,065,932	293,003	74,642	190,567	137,281	232,642	3,978	212,439
3	1,065,365	292,827	74,720	190,228	137,282	233,642	3,858	211,386
4	1,067,486	295,255	74,649	189,431	137,911	234,493	3,783	210,396
5	1,066,362	296,023	74,320	188,223	138,414	234,772	3,767	208,930

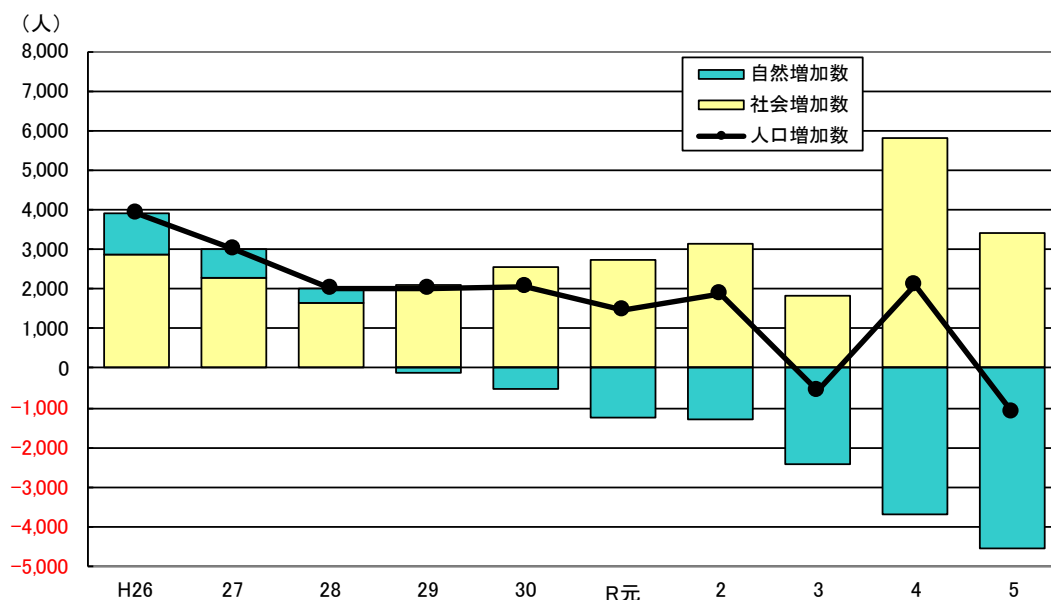


図1 人口増加数の推移（平成26年～令和5年）

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区において人口が増加しており、いずれも前年の人口増加数を下回りました。

人口増加数が最も多かったのは青葉区の768人（自然増加数△1,457人、社会増加数2,225人）で、以下、若林区の503人（自然増加数△366人、社会増加数869人）、太白区の279人（自然増加数△963人、社会増加数1,242人）、宮城野区の△1,208人（自然増加数△609人、社会増加数△599人）、泉区の△1,466人（自然増加数△1,160人、社会増加数△306人）でした。

（表1、図2、統計表第1表）

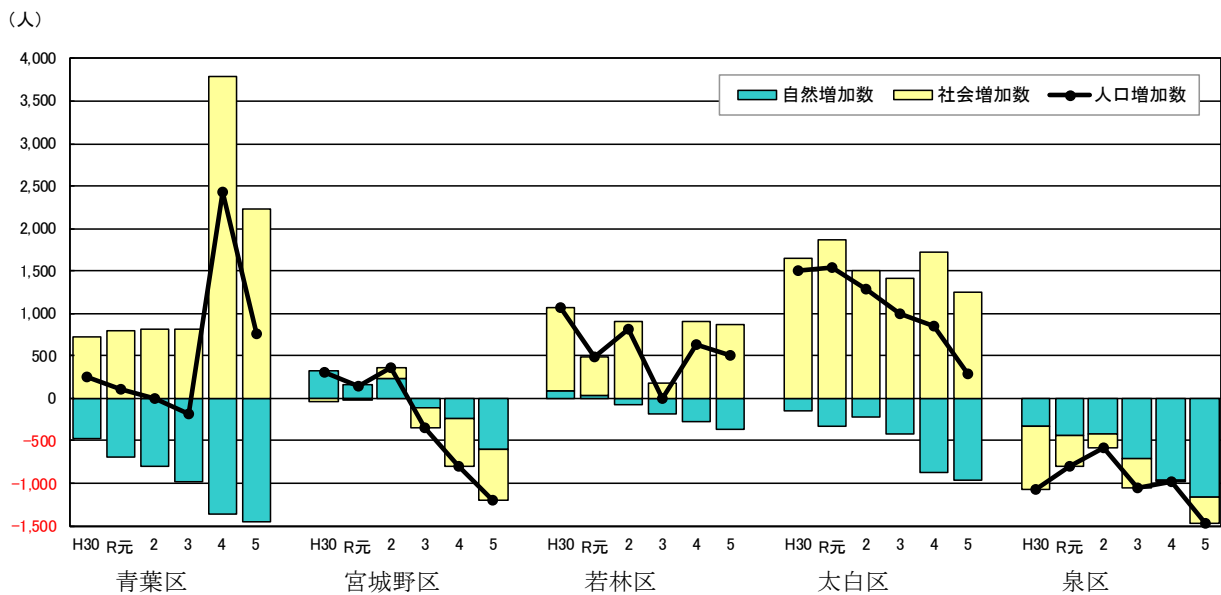


図2 人口増加数の推移一区（平成30年～令和5年）

## 2 自然動態

令和5年の出生数は前年より434人減少して6,684人、死亡数は前年より414人増加して1万1,239人となったことから、自然増加数は $\Delta$ 4,555人となり、前年の $\Delta$ 3,707人に比べ848人減少しました。自然増加数は7年連続で減少しています。また死亡数は11年連続で増加しました。

(図3、統計表第1表)

区別の動向をみると、出生数は全ての区で前年より減少し、死亡数は全ての区で前年より増加しました。

自然増加数のマイナス幅が最も小さかったのは若林区の $\Delta$ 366人(出生数980人、死亡数1,346人)で、以下、宮城野区の $\Delta$ 609人(出生数1,288人、死亡数1,897人)、太白区の $\Delta$ 963人(出生数1,637人、死亡数2,600人)、泉区の $\Delta$ 1,160人(出生数1,094人、死亡数2,254人)、青葉区の $\Delta$ 1,457人(出生数1,685人、死亡数3,142人)でした。

(図4、統計表第1表)

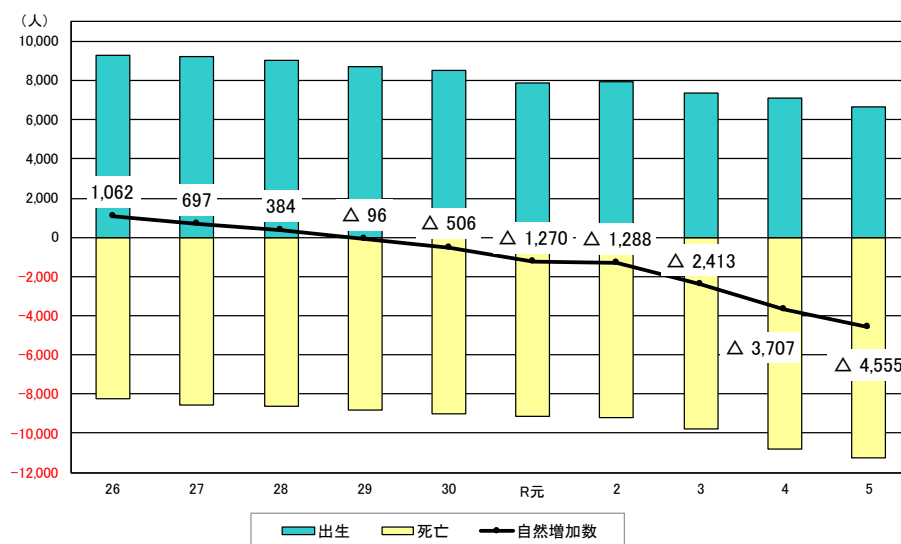


図3 自然動態の推移—全市(平成26年~令和5年)

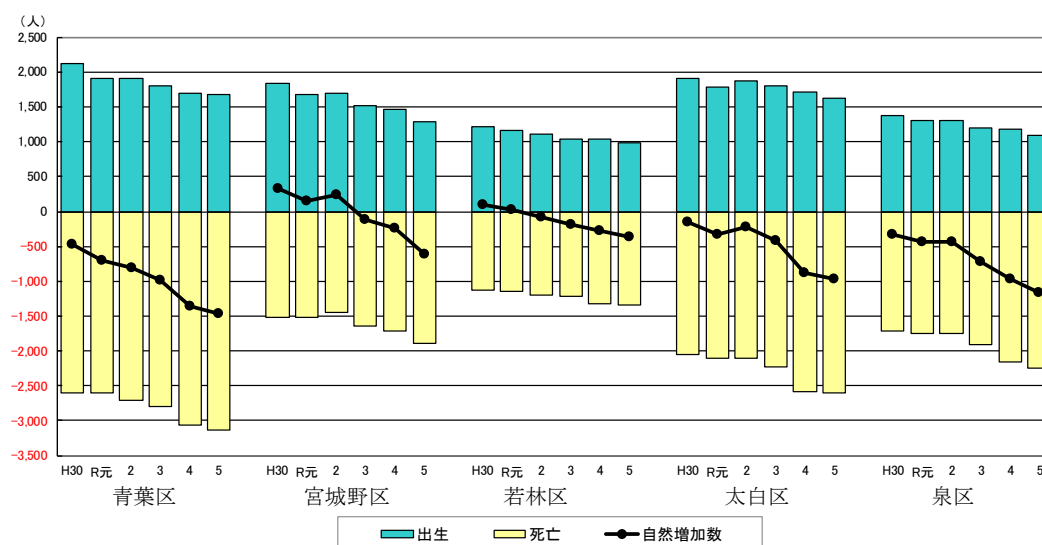


図4 自然動態の推移—区(平成30年~令和5年)

### 3 社会動態（区間移動含む）

令和5年の転入数は6万5,656人で前年より1,695人の減少、転出数は6万2,390人と前年より883人の増加、この結果、転入・転出数の差にその他増加数165人を加えた社会増加数は3,431人となりました。前年の社会増加数5,828人に比べ2,397人の減少となっています。

区別の動向をみると、青葉区、若林区、太白区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となり、泉区では県内移動、県外・国外との移動がともに転出超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の2,225人（転入数2万922人、転出数1万8,731人、その他増加数34人）で、以下、太白区の1,242人（転入数1万2,923人、転出数1万1,745人、その他増加数64人）、若林区の869人（転入数9,578人、転出数8,746人、その他増加数37人）、泉区の△306人（転入数9,577人、転出数9,901人、その他増加数18人）、宮城野区の△599人（転入数1万2,656人、転出数1万3,267人、その他増加数12人）でした。

（図5、統計表第1表）

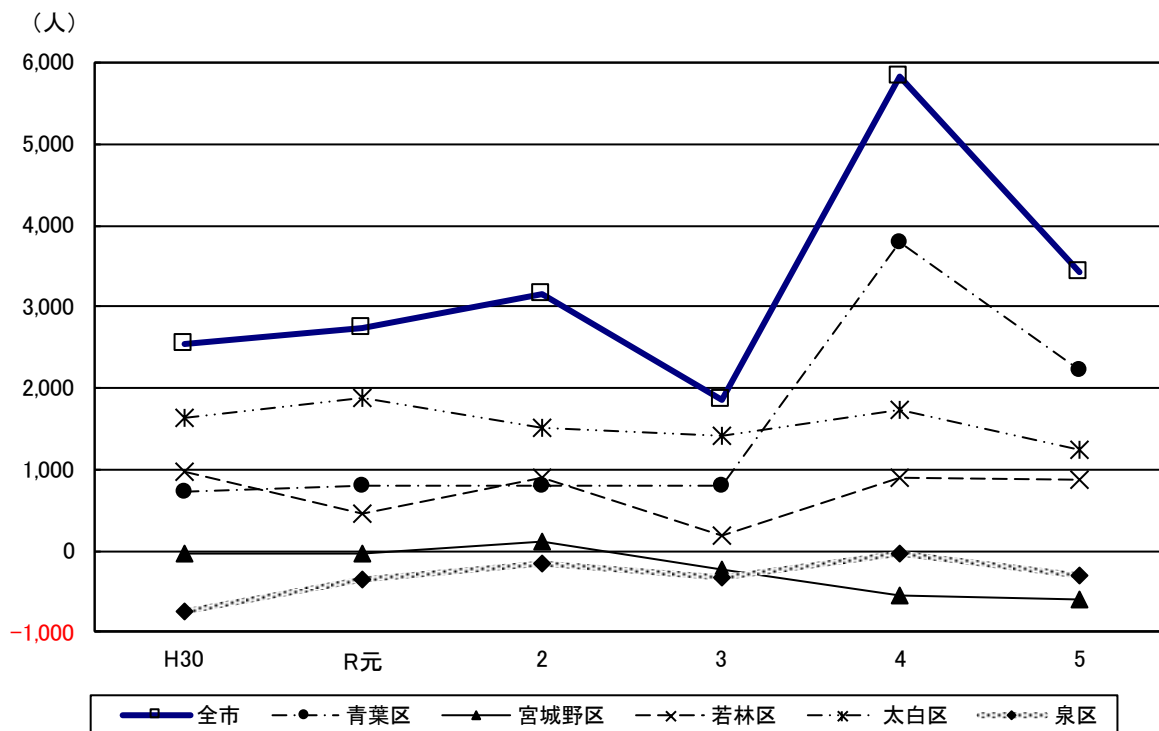


図5 社会増加数の推移—全市、区（平成30年～令和5年）